

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	歴史文化学コース(日本史学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)											
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>											
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		<p>コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)</p>											
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広げる。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究方法を学ぶ講義科目や文献講義を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要とするスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>		<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力が高められることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出することができる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献にあり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねること、独自の論考にまとめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力が高めることができる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察力と幅広いバースペクティブを養うことができる。</p>											
主履修分野のカリキュラム													
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4						
21301	歴史学入門	歴史を歴史学として見る眼を養うとともに、特定テーマに関してグループごとの調査・発表を行う。	1				*	○	○				○
21303	グローバルヒストリー	一国史の枠を超えた、グローバルな視点で歴史を考察する力を養う。	2	*				○					○
21302	歴史学と現在	戦後日本の歴史学を学ぶことを通じて、歴史学の存在意義を理解する。	1					◎				○	○
41552	日本古代中世史概説A1	古墳時代から平安時代に至るまでの、国家・社会・文化に関する古代史の基礎知識を身につける。	1~4	*		*		◎					○
41553	日本古代中世史概説A2	古墳時代から平安時代に至るまでの、国家・社会・文化に関する古代史の基礎知識を身につける。	1~4	*		*		◎					○
41554	日本古代中世史概説B1	中世の国家体制である権門体制を理解する。あわせて様々な社会集団の特質を学ぶ。	1~4	*		*		◎					○
41555	日本古代中世史概説B2	中世の宗教秩序である顕密体制を理解する。そのような秩序のもとで活動する多様な宗教者について学ぶ。	1~4	*		*		◎					○
41556	日本近世近代史概説A1	近世後期から幕末期の政治・社会の動きを通史的に理解する。	1~4	*		*		◎					○
41557	日本近世近代史概説A2	近世後期から幕末期の政治・社会の動きを通史的に理解する。	1~4	*		*		◎					○
41558	日本近世近代史概説B1	金沢をはじめとする地方都市の近現代史に関する理解を深める。	1~4	*		*		◎					○
41559	日本近世近代史概説B2	金沢をはじめとする地方都市の近現代史に関する理解を深める。	1~4	*		*		◎					○
41560	日本古代史特殊講義A	古代国家の支配体制について、唐王朝との比較検討を行いつつ、その全体像と特色を理解する。	2~4	*		*							◎
41561	日本古代史特殊講義B	古代国家の支配体制について、唐王朝との比較検討を行いつつ、その全体像と特色を理解する。	2~4	*		*							◎
41562	奈良平安時代史特殊講義A	古代社会の実態、および文化・宗教の諸相について、東アジアの各地域と比較しつつ、その特質を理解する。	2~4	*		*							◎
41563	奈良平安時代史特殊講義B	古代社会の実態、および文化・宗教の諸相について、東アジアの各地域と比較しつつ、その特質を理解する。	2~4	*		*							◎
41564	日本中世地域史特殊講義A	守護大名・大内氏に関し、幕府や朝鮮・明との関係を理解する。	2~4	*		*							◎
41565	日本中世地域史特殊講義B	守護大名・大内氏に関し、領国支配と宗教の関係を理解する。	2~4	*		*							◎
41566	日本中世寺院史特殊講義A	中世における宗教と社会の関係を理解する。	2~4	*		*							◎
41567	日本中世寺院史特殊講義B	中世における聖地の役割を理解する。	2~4	*		*							◎
41568	日本近世政治史特殊講義A	日本近世国家について多様な視角から理解を深め、近世史研究の到達点と課題を理解する。	2~4	*		*							◎
41569	日本近世政治史特殊講義B	日本近世国家について多様な視角から理解を深め、近世史研究の到達点と課題を理解する。	2~4	*		*							◎
41570	日本近世社会史特殊講義A	日本近世社会について多様な視角から理解を深め、近世史研究の到達点と課題を理解する。	2~4	*		*							◎
41571	日本近世社会史特殊講義B	日本近世社会について多様な視角から理解を深め、近世史研究の到達点と課題を理解する。	2~4	*		*							◎
41572	日本近代都市史特殊講義A	日本の近代都市史に関する理解を深め、それに関する史料の読解能力を身につける。	2~4	*		*							◎
41573	日本近代都市史特殊講義B	日本の近代都市史に関する理解を深め、それに関する史料の読解能力を身につける。	2~4	*		*							◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	歴史文化学コース(日本史学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)									
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>									
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)									
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広げる。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究方法を学ぶ講義科目や文献講義を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要とするスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>		<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力が高められることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出することができる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献に当たり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることで、独自の論者にまとめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力が高められる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察力と幅広いバースペクティブを養うことができる。</p>									
主履修分野のカリキュラム											
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4				
41574	日本現代都市史特殊講義A	日本の現代都市史に関する理解を深め、それに関する史料の読解能力を身につける。	2~4	*		*					◎
41575	日本現代都市史特殊講義B	日本の現代都市史に関する理解を深め、それに関する史料の読解能力を身につける。	2~4		*		*				◎
41576	日本史特殊講義A	日本古代・中世の国家・社会・文化についての理解を深める。	2~4								◎
41577	日本史特殊講義B	日本近世・近代の国家・社会・文化についての理解を深める。	2~4								◎
41513	日本古代政治史演習A	古代の政治史に関する史料(六国史中心)を解読する。	2~4						◎		◎
41514	日本古代政治史演習B	古代の政治史に関する史料(古記録中心)を解読する。	2~4						◎		◎
41548	日本古代史料演習A	奈良時代史の基本史料である『続日本紀』を解読する。	2~4	*	*				◎		◎
41549	日本古代史料演習B	奈良時代史の基本史料である『続日本紀』を解読する。	2~4			*	*		◎		◎
41550	奈良平安時代史演習A	貴族社会に関する史料(古記録など)を解読する。	2~4	*	*				◎		◎
41551	奈良平安時代史演習B	貴族社会に関する史料(古記録など)を解読する。	2~4			*	*		◎		◎
41519	日本中世地域史演習A	中世的共同体と寺社の関係を示す史料を解読する。	2~4	*	*				◎		◎
41520	日本中世地域史演習B	中世村落と寺社の関係を示す史料を解読する。	2~4			*	*		◎		◎
41521	日本中世寺院史演習A	中世前期の社会と寺社の関係史料を解読する。	2~4	*	*				◎		◎
41522	日本中世寺院史演習B	中世後期の社会と寺社の関係史料を解読する。	2~4			*	*		◎		◎
41523	室町戦国時代史演習A	守護大名大内氏及びその領国内村落の史料を解読する。	2~4	*	*				◎		◎
41524	室町戦国時代史演習B	戦国期惣村の史料を解読する。	2~4			*	*		◎		◎
41541	日本近世前期史演習A	近世史の重要論文と近世前期の史料を講読することで、日本近世史の現状と課題を把握する。	2~4	*	*				◎		◎
41542	日本近世前期史演習B	近世前期史の重要論文の講読を通じて、日本近世史の現状と課題を理解するとともに、実際に近世文書を調査(目録作成・撮影・解読)を行い、調査・研究能力を高める。	2~4			*	*		◎		◎
41543	日本近世中期史演習A	近世史の重要論文と近世中期の史料を講読することで、日本近世史の現状と課題を把握する。	2~4	*	*				◎		◎
41544	日本近世中期史演習B	近世中期史の重要論文の講読を通じて、日本近世史の現状と課題を理解するとともに、実際に近世文書を調査(目録作成・撮影・解読)を行い、調査・研究能力を高める。	2~4			*	*		◎		◎
41545	日本近世後期史演習A	近世史の重要論文と近世後期の史料を講読することで、日本近世史の現状と課題を把握する。	2~4	*	*				◎		◎
41546	日本近世後期史演習B	近世後期史の重要論文の講読を通じて、日本近世史の現状と課題を理解するとともに、実際に近世文書を調査(目録作成・撮影・解読)を行い、調査・研究能力を高める。	2~4			*	*		◎		◎
41531	日本近代史演習A	近代日本の政治・社会に関する諸問題について、重要史料を講読することを通じて理解を深める。	2~4	*	*				◎		◎
41532	日本近代史演習B	近代日本の政治・社会に関する諸問題について、重要史料を講読することを通じて理解を深める。聞き取り調査に取り組むこともある。	2~4			*	*		◎		◎
41533	日本現代史演習A	現代日本の政治・社会に関する諸問題について、重要史料を講読することを通じて理解を深める。聞き取り調査に取り組むこともある。	2~4	*	*				◎		◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	歴史文化学コース(日本史学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)									
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>									
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)									
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広げる。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究方法を学ぶ講義科目や文献講義を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要とするスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>		<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出することができる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献にあり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることによって、独自の論者にまとめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察力と幅広いバースペクティブを養うことができる。</p>									
主履修分野のカリキュラム											
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4				
41534	日本現代史演習B	現代日本の政治・社会に関する諸問題について、重要史料を講読することを通じて理解を深める。聞き取り調査に取り組むこともある。	2~4			*	*			◎	◎
41535	日本近現代史演習A	近現代日本の政治・社会に関する諸問題について、重要史料を講読することを通じて理解を深める。	2~4	*	*					◎	◎
41536	日本近現代史演習B	近現代日本の政治・社会に関する諸問題について、重要史料を講読することを通じて理解を深める。聞き取り調査に取り組むこともある。	2~4			*	*			◎	◎
41578	日本史学実習A1	日本古代史の研究を進めるうえで不可欠な基礎的知識を体得する。	2~4	*						◎	
41579	日本史学実習A2	日本中世史の研究を進めるうえで不可欠な基礎的知識を体得する。	2~4		*					◎	
41580	日本史学実習B1	日本近世史の研究を進めるうえで不可欠な基礎的知識を体得する。	2~4			*				◎	
41581	日本史学実習B2	日本近代史の研究を進めるうえで不可欠な基礎的知識を体得する。	3, 4				*			◎	
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*	*					◎	◎
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4			*	*			◎	◎
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを果たすために必要な論述の条件について知る。	4			*	*			◎	◎
11057	人文学序説A	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・ラボラトリ(実験)、サーベイ(調査と分析)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*		(*)				○	
11058	人文学序説B	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・フィールドワーク(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	(*)				◎	
11059	人文学序説C	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・哲学・歴史学分野における具体的な研究実践やテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1	(*)		*				◎	
11060	人文学序説D	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・言語や文学に関するテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1		(*)	*				○	
11061	学類共通英語A	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*							◎
11062	学類共通英語B	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語A」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3		*						◎

※ (*)は年度によって開講時期が異なることを示します。